



岡崎市立愛宕小学校 校長通信 令和5年1月20日（金）



だいすきいっぱい チーム愛宕



1月20日（金）、「大寒」の日、学校公開デーとして、授業参観と百人一首大会が行われました。文字通り寒い一日となりましたが、早朝より多くの保護者の皆様にご来校いただきました。ありがとうございました。こうして、学校に足を運ばれ、学校の実態を見ていただけることが嬉しいことでもあります。年度当初にも述べましたが、学校は保護者・地域とともに歩みを進め、協力体制を築き、子供を伸ばしていくところでもあります。コロナ禍ではありますが、今後も「開かれた学校」を目指してまいります。ご協力のほどよろしくお願いいたします。なお、今週に入り欠席者の多かった6年について、急な変更で大変ご迷惑をおかけしました。メール配信したとおりですので、詳細が決まりましたら連絡いたします。よろしくお願いいたします。



伸びようとしている子供たちの目はいい。そこには必ず真剣さがある。「教室はまちがうところだ」の絵本が図書室にあります。私もよく4月の学級開きの際に、このことを話しました。間違いを責めない仲間づくり、自分の考えを友達にどんどん聞いてもらいたいと思える、そんなよい雰囲気の学級集団を目指しています。音楽室からは、素敵ナリコーダーの音色が響いてきました。この日の「リコーダーミニコンサート」に向けて練習してきた子供たちの演奏でした。きれいな二部合奏の音色を聴くことができ、幸せな時間が流れました。

百人一首大会では、上の句を聞いて札を取る児童がいます。耳と目で集中力を高めて取り組んでいました。私がこうした大会を経験したのは、高校になってからのことでした。高校で初めて百人一首大会を経験し、上の句からとれるものを一つ覚えました。それが「ひさかたの 光のどけき 春の日に 静子心なく 花の散るらむ」でした。ですから、「ひさ」と聞いたとたんに、予め見つけておいた「しず」へ手をのぼしたことを覚えています。しかし、残念ながらそれだけでした。本当はもっと覚えて取れるようにすればよかったのですが...。もっぱら百人一首より坊主めくりの方が好きでした。愛宕の子供たちはすごいと思います。なにかひとつでも得意なことを見つけることで、人は自信をもつことができます。自信がつくと、その力をさらに他の分野へも応用し、活用していきます。「だいすきいっぱい」から全ては始まります。

